



エコアクション21  
認証-登録番号: 0003013

# 平成24年度 環境活動レポート

平成24年4月～平成25年3月



一般財団法人 九州環境管理協会

発行日 平成25年7月31日

## 目次

I	組織の概要	2
II	環境方針	9
III	環境目標	10
IV	環境活動計画の内容	12
V	環境目標の実績	14
VI	環境活動計画の取組結果	16
VII	次年度の環境活動計画	20
VIII	環境関連法規等の遵守状況	21
IX	代表者による全体評価と見直しの結果	22

## I 組織の概要

### 1. 事業所名及び代表者氏名

一般財団法人 九州環境管理協会 理事長 持田 勲

### 2. 所在地

本部

〒813-0004

福岡市東区松香台1丁目10番1号

エネルギー・環境情報センター

〒813-0004

福岡市東区松香台1丁目161番3号



北九州支所

〒804-0084

北九州市戸畑区幸町7-9 エクレール戸畑駅東1107

### 3. 基本財産

1,000万円

### 4. 環境管理責任者、担当者氏名及び連絡先

環境管理責任者：理事兼総務部長 高木満郎

担当者(EA21事務局)：総務課長 大塚康行

TEL：092-662-0410 FAX：092-662-0411 E-mail：syougai@keea.or.jp

### 5. 対象活動

環境調査・分析試験、環境アセスメント、環境計画、環境関係コンサルタント、環境教育等の啓発事業

### 6. 事業の規模

活動規模	単位	平成21年度 (21年4月～22年3月)	平成22年度 (22年4月～23年3月)	平成23年度 (23年4月～24年3月)	平成24年度 (24年4月～25年3月)
売上高	百万円	1,398	1,567	1,577	1,483
職員数	人	160	163	163	161
床面積	m <sup>2</sup>	6,171	6,171	6,171	6,181

## 7. 事業の概要

### (1) 環境啓発・技術指導

持続可能な循環型社会の実現を目指して、環境に関わる様々な啓発普及・教育に取り組み、地域社会の環境向上に貢献しています。

#### ①福岡県地球温暖化防止活動推進センター

- 県民や企業、NPO、自治体など多くの人の地球温暖化防止に向けた活動を促進するため、調査研究の成果や収集した情報を公開・提供しています。
- 地球温暖化の現状及び地球温暖化対策の重要性についての啓発・広報活動を行っています。
- 地球温暖化防止活動推進員及び NPO など民間団体の地球温暖化対策活動の支援を行っています。
- 県内の温室効果ガスの排出実態について調査分析を行い、情報の提供を行っています。
- 温室効果ガス排出削減につながる日常生活に関する対策などについて照会や相談に応じ、必要に応じて助言を行っています。

#### ②環境マネジメントシステム エコアクション 21 地域事務局 ECO-KEEA 九環協

- 中小企業の幅広い事業者の皆さんへホームページやセミナーで認定制度等の普及促進をしています。また、地方公共団体と共同でエコアクション 21 の普及推進を図っています。
- 環境に配慮した経営に取り組みたい事業者の皆さんに個別相談や審査人の紹介を行っています。
- エコアクション 21 地域判定委員会を開催し、認証・登録の可否を審議し判定しています。
- 公正かつ円滑な運営のため、地域の学識経験者及び事業者を中心とした運営委員会を設置しています。

#### ②エネルギー・環境情報センター

- 環境教育・啓発活動を実施しています。
- ホームページでの環境情報資料集の提供、まちづくりと環境に関する講演会などを行っています。
- 会誌「環境管理」を発行(年1回)しています。

## (2) 環境調査

私たち人間の活動は、自然にいろいろな影響を与えています。人間と自然が共生するためには、自然の姿を深く知ることが大切です。私たちは、自然環境の今を知るために様々な環境調査を行っています。

### ①環境全般

- 風向・風速、気温・湿度、日射量、放射収支量などの気象調査
- 波浪、潮位、潮流、水位、流量などの水象調査
- 植物・植生、哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類などの陸生生物調査、生態系調査
- 底生動物、潮間帯生物、魚類、プランクトンなどの水生生物調査、生態系調査
- 大気汚染、水質汚濁、騒音、振動、悪臭、地下水汚染、廃棄物などの環境調査
- 土壤汚染状況調査、超高感度トレーサ法による地下水流動調査、環境放射能調査

### ②農林・水産関係

- 魚介類の増殖、藻場造成、干潟造成、人工魚礁などの生息環境の調査・研究
- 農作物、水産生物などの生産量調査、農業用水の水利調査
- 牧草地の草地利用調査、農村地域の資源調査、生態系調査

### ③土木・建築関係

- 陸上交通、水上交通などの交通量調査、
- 自然景観、農村景観、都市景観などの景観調査
- リモートセンシングデータ解析による緑地分布調査

## (3) 分析・試験

大気、水、生物さらに環境放射能など、幅広い分野にわたって高度な技術と高感度な機器を駆使して総合的・系統的な分析・試験を行っています。

### ①環境全般

- 煙道排ガス、環境大気質、有害大気汚染物質、ダイオキシン類などの測定
- 用水、排水、地下水などの水質分析、底質・土壌分析
- 法規制物質、嗅覚測定法(官能試験)などの悪臭測定
- 環境生物全般についての分類・同定

### ②保健衛生関係

- 飲料水・プール水分析、温泉水分析
- 産業廃棄物分析、O-157菌、レジオネラ菌などの細菌分析

③農林・水産関係

- 農薬分析、肥料分析、土壌養分分析、AGP 試験、毒性試験などの生物試験

④土木・建築関係

- 化学法・モルタルバー法による骨材のアルカリシリカ反応性試験
- 骨材試験、セメント・コンクリート分析、土質試験、室内空气中化学物質測定

⑤その他の分析

- 環境放射能分析、絶縁油中 PCB 分析
- 考古学試料分析(年代測定など)、物質鑑定試験(物質の同定)、鉱物分析

(4) 解析評価・システム開発

気圏、水圏、地圏、生物圏など環境全般を多角的な立場で解析し現況を明らかにするとともに、コンピュータを駆使して環境解析やシステム開発を行うなど多様なニーズに答えています。

①環境全般

- 流況予測評価、風況予測評価、大気汚染予測評価、水質汚濁予測評価、騒音・振動予測評価、悪臭予測評価、生態系予測評価などの環境アセスメント
- 最終処分場、焼却施設、污泥再生処理センターなど廃棄物処理施設の生活環境影響調査、統計解析、多変量解析
- GIS による環境、土地利用の解析、希少生物の保護・育成、自然再生活動
- 干潟造成、藻場造成、植物移植などの環境保全事業

②農林・水産関係

- 漁業影響予測評価、資源量解析、漁業補償などの水産資源の解析・評価
- 森林資源の資源量解析、地下水などの水利解析

③土木・建築関係

- 微気象解析、日影計算、潮汐・潮流調和解析
- 波浪解析・推算、海浜変形計算、洪水流出計算、低水流出計算などの流出解析
- トレーサ調査、流動シミュレーションによる地下水流動解析
- 土地利用、建物分布、緑・都市施設、道路等のデータベース構築・運用
- 統計解析、多変量解析によるアンケート解析、地形・景観模型解析

#### ④エネルギー関係

- 数値解析による地熱水流動解析、騒音、振動、変位等、機械設備などの診断

### (5) 計画・設計

地球環境の保全、人と自然の共生、資源の循環、快適な生活環境という視点から環境基本計画の策定や都市計画、農村計画、地球温暖化防止計画及びエネルギー関連計画など幅広く多面的な計画・設計業務を行っています。

#### ①環境全般

- 環境基本計画などの地域環境計画、地球温暖化対策地域推進計画
- 地球温暖化対策実行計画、廃棄物処理計画、廃棄物減量計画、リサイクル計画
- 自然環境保全基本計画、自然公園保護管理計画、環境教育基本計画

#### ②農林・水産関係

- 農村環境計画、農村振興基本計画、農業振興地域整備計画
- 自然共生型ため池などのビオトープ計画、生態系保全型水田・水路整備計画
- バイオマス利活用計画、里山の保全・管理計画
- 森林・林業基本計画、小型魚道などの生態系保全技術の開発

#### ③土木・建築関係

- 市町村総合計画、市町村合併に伴う新市建設計画、国土利用計画
- 都市計画マスタープラン、都市計画基礎調査、緑の基本計画、緑地保全計画
- 景観法に基づく景観計画、まち並環境整備事業
- ビオトープ、エコパーク、多自然型川づくりの計画設計
- ワークショップなどによる公園緑地計画設計
- まちづくり条例などのコンサルティング
- カブトガニなどの生息環境保全計画設計
- 文化財整備マスタープランなどの文化財整備計画設計
- 河川環境計画、ため池マスタープラン、港湾環境計画、地域防災計画

#### ④エネルギー関係

- 地域新エネルギービジョン、地域省エネルギービジョン、
- ローカルエネルギーの利活用計画（バイオマス、小水力発電利用計画）

## 8. 許可

- ・放射性同位元素等使用許可 【文部科学省 使第 2792 号】
- ・国際規制物資の使用許可 【文部科学省 第 560 号】
- ・核燃料物質の使用許可 【文部科学省 第 723 号】

## 9. 登録

- ・建設コンサルタント（廃棄物、建設環境） 【建 24 第 7493 号】
- ・計量証明事業（濃度） 【福岡県 第 6 号】
- ・計量証明事業（音圧レベル） 【福岡県 第 2 号】
- ・計量証明事業（振動加速度レベル） 【福岡県 第 14 号】
- ・計量証明事業（特定濃度） 【福岡県第 7 号】
- ・計量法に基づく認定特定計量証明事業者（MLAP） 【N-0098-01】
- ・温泉成分分析機関 【福岡県 第 1 号】
- ・水道法第 20 条に基づく水質検査機関 【厚生労働省 第 43 号】
- ・建築物飲料水水質検査業務 【福岡県 17 水第 30 号】
- ・作業環境測定機関 【厚生労働省 40-8 第 1、2、3、4、5 号の作業場】
- ・ISO9001 認証（調査分析部） 【O1QR・470】
- ・ISO/IEC 17025 認証（調査分析部）
  - 骨材のアルカリシリカ反応性試験（化学法） 【JNLA 登録：090271JP】
  - 食品の放射能測定 【JAB 登録：RTL03640】
- ・水文調査トレーサ及び水文調査法 【特許庁 特許第 2899258 号】
- ・エコアクション 21 認証・登録 【0003013】

## 10. 指定、認定

- ・土壌汚染対策法に基づく指定調査機関 【環境省 環 2003-1-256】
- ・福岡県地球温暖化防止活動推進センター 【福岡県 20 環政 第 2198 号】
- ・エコアクション 21 地域事務局 【1-033】

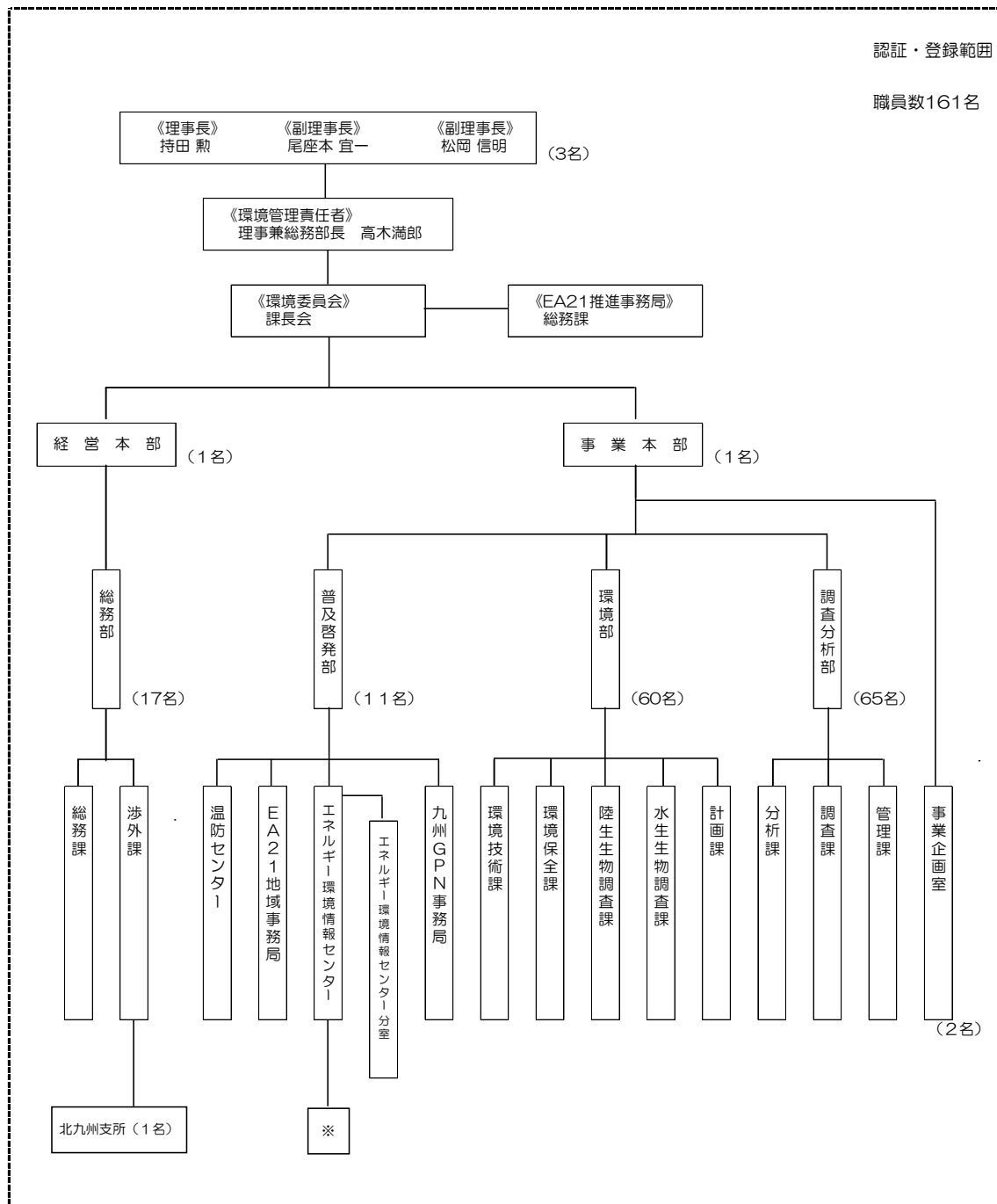
## 11. レポートの対象期間

平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日



## 12. 対象範囲

環境マネジメントシステムの認証・登録範囲は、下図のとおりです。



※ 福岡市保健環境研究所内まもる一むに常勤（4名）

## 環境方針

### 経営理念

私たちは、  
豊かな環境の保全と創造をとおして、  
地域住民の健康と生活を守り、  
社会の持続的発展に貢献します。  
事業活動においては  
高度な技術実施、  
法令遵守、  
環境負荷の削減を推進します。

### 活動指針

1. クライアントに対して環境配慮した持続的発展につながる提案を行います。
2. 環境に配慮した環境計測及び分析業務を行い、正しい環境状況を把握し報告します。
3. 事業活動全般にわたって環境関連法規を遵守し、化学物質を厳密に管理し、省エネ、省資源、廃棄物削減に努めます。
4. 資器材の調達に当たっては、環境配慮製品を優先します。
5. 常に最高度・最精度の技術をもって社会の要請に応えます。
6. 社会に対して環境啓発及び環境貢献を積極的に行います。
7. 環境方針、環境目標、環境活動計画を全職員に周知し、適切な教育訓練・実践を徹底します。
8. 環境活動レポートを一般に公開します。

制定日 2011年 8月 11日

理事長

持田 勤



一般財団法人 九州環境管理協会

## 環境目標

### 1. 単年度の環境目標

平成 24 年度の環境目標は、二酸化炭素排出量 485,892kg-CO<sub>2</sub> (21 年度実績△1.5%)、廃棄物排出量 73.61t(19~21 年度平均実績△3.0%)、総排水量 3,606 m<sup>3</sup>(21 年度実績△1.5%)、事務用品等のグリーン購入 66.0% (21 年度実績+2.0%)、化学物質使用量 3.17 (22 年度実績△1.0%)、環境保全に関する普及啓発活動 140 件、環境アセスメント関連の実績 30 件としました。

なお、電気の二酸化炭素排出係数は、平成 20 年度九州電力(株)の実排出係数 0.374kg-CO<sub>2</sub>/kWh を用いています。

項目	単位	《基準値》	平成24年度
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO <sub>2</sub>	493,291 (H21実績)	485,892
	% (削減率)	—	△ 1.5
廃棄物排出量の削減	t	75.89 (H19~21平均)	73.61
	% (削減率)	—	△ 3.0
総排水量の削減	m <sup>3</sup>	3,661 (H21実績)	3,606
	% (削減率)	—	△ 1.5
事務用品等のグリーン購入	%	64.0 (H22実績)	66.0
	% (増加率)	—	2.0
化学物質使用量の削減	L/百万円 (使用量/受注額)	3.20 (H22実績)	3.17
	% (削減率)	—	△ 1.0
環境保全に関する普及啓発活動 (主催イベント、講師派遣、支援事業等)	件	123 (H22実績)	140
環境アセスメント関連事業の実施	件	28 (H23実績)	30

## 2. 中長期の環境目標

平成 22 年度に設定した中長期の環境目標は以下のとおりです。なお、電気の二酸化炭素排出係数は、平成 20 年度九州電力（株）の実排出係数 0.374kg-CO<sub>2</sub>/kWh を用いています。

項目	単位	《基準値》	平成23年度	平成24年度	平成25年度
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO <sub>2</sub>	493,291 (H21実績)	488,358	485,892	483,425
	% (削減率)	—	△ 1.0	△ 1.5	△ 2.0
廃棄物排出量の削減	t	75.89 (H19~21平均)	74.37	73.61	72.85
	% (削減率)	—	△ 2.0	△ 3.0	△ 4.0
総排水量の削減	m <sup>3</sup>	3,661 (H21実績)	3,624	3,606	3,588
	% (削減率)	—	△ 1.0	△ 1.5	△ 2.0
事務用品等のグリーン購入	%	64.0 (H22実績)	65.0	66.0	67.0
	% (増加率)	—	1.0	2.0	3.0
化学物質使用量の削減	L/百万円 (使用量/受注額)	3.20 (H22実績)	3.18	3.17	3.15
	% (削減率)	—	△ 0.5	△ 1.0	△ 1.5
環境保全に関する普及啓発活動 (主催イベント、講師派遣、支援事業等)	件	123 (H22実績)	140	140	140
環境アセスメント関連事業の実施	件	28 (H23実績)	—	30	30

## 環境活動計画の内容

### 1. 電気使用量の削減

活動項目	責任者	実践事項	チェック方法	チェック頻度
エアコン設定温度を決め、実行する	田中	① 空調を利用する際の室温（気温）をチェックする。 ② エアコンの設定温度を決める。 夏は28℃、冬は20℃を目安とする。 ③ クールビス・ウォームビスを実践する。	巡回	エアコン稼動時
エアコンフィルターの清掃	大塚	① 協会全体のエアコンフィルターを年4回清掃する。 暖冷切替時期（5～6月頃）、冷房期間中（8月頃） 冷暖切替時期（10～11頃）、暖房期間中（1月頃）	ヒアリング	エアコンシーズン前
昼休みの消灯運動	大塚	① 昼休みの消灯を徹底する。	巡回	毎月
退出時のOA機器の主電源OFF	藤井高比良	① 帰宅時や外出時、長時間の不在時には、OA機器の主電源OFFを徹底する。	巡回	毎月
ECOねっとシステムの運用	大塚	① 毎月の最大電力使用量の目標を設定する。 ② 警報が鳴ったら館内放送で電気使用の抑制を促す。	モニター	毎日

### 2. ガソリン使用量の削減

活動項目	責任者	実践事項	チェック方法	チェック頻度
エコドライブ10の推進	大塚	① エコ運転を実践する。 急発進や急加速をしない。運転席を離れる時は必ずエンジンを切る。また、エコ運転を実施した時は、運転記録簿の「エコ運転」欄に○印を付け、できなかった場合は、その理由を記載する。	運転記録簿 エコ運転欄	毎月
燃費の把握	大塚	① 車の燃費を計算する。	運転記録簿 走行距離欄 給油量記載欄	毎月
公共交通機関の利用促進	松田	① 公共交通機関を率先して利用する。	カード使用 管理簿	毎月

### 3. 可燃ゴミ（一般廃棄物）の削減

活動項目	責任者	実践事項	チェック方法	チェック頻度
紙類、ペットボトル等の分別の徹底	辻	① 一般ゴミの分別を徹底する。 ゴミ箱に紙類・ペットボトルを捨てない。また、缶・ペットボトルは、協会内自販機横の専用ゴミ箱に分別回収する。	巡回	毎月
両面・複数ページ印刷の推進、裏紙使用の徹底	岩下	① 両面印刷や両面コピーを実践する。 ② 裏紙が使用しやすい環境を整える。 紙の規格ごとに分類し、印刷可能面を上面して整理整頓を行う。	巡回	毎月

#### 4. 廃酸、廃油（産業廃棄物）の削減

活動項目	責任者	実践事項	チェック方法	チェック頻度
廃棄物の識別、試薬調整量の適正化、器具洗浄液量の削減	芦川 川村	① 対象液の特性（有害性等）を考慮して、廃酸・廃油に該当するか識別する。 ② 試料数等を考慮して、使用する試薬調整量を適正にする。 ③ 器具洗浄の際は、少量の水（溶媒）で複数回洗浄するなど、洗浄液量の削減に努める。	ヒアリング	毎月

#### 5. 節水活動の推進

活動項目	責任者	実践事項	チェック方法	チェック頻度
節水活動の推進	柳澤	① 節水活動を推進する。	ヒアリング	2か月毎

#### 6. グリーン購入の推進

活動項目	責任者	実践事項	チェック方法	チェック頻度
事務用品等のグリーン購入	大塚	① 事務用品のグリーン購入を推進する。 ② インターネットで購入している事務用品等のグリーン購入額を集計する。	請求書等	毎月

#### 7. 化学物質使用量の削減

活動項目	責任者	実践事項	チェック方法	チェック頻度
化学物質使用量の削減	芦川	① 化学物質の使用量の削減を推進する。 ② 四半期ごとに化学物質の使用量を集計する。	納品書等	都度

#### 8. 自らが生産・販売・提供する製品及びサービスに関する環境配慮

活動項目	責任者	実践事項	チェック方法	チェック頻度
環境保全に関する普及啓発活動	大平	① 講習会・講演会の開催、講師派遣等の環境啓発活動を実施する。	ヒアリング	都度

#### 9. エネルギー環境情報センターにおける取組

活動項目	責任者	実践事項	チェック方法	チェック頻度
エネルギー環境情報センターにおける取組	大平	① 環境活動が適正に行われているか確認する。	巡回	毎月

#### 10. クライアントに対して環境に配慮した提案

活動項目	責任者	実践事項	チェック方法	チェック頻度
環境アセスメント関連事業の実施	末津	① 環境アセスメント関連の実績件数を把握する。	ヒアリング	都度

## 環境目標の実績

平成24年度環境目標の実績は、以下のとおりです。なお、電気の二酸化炭素排出係数は、平成20年度九州電力（株）の実排出係数0.374kg-CO<sub>2</sub>/kWhを用いています。

項目	単位	平成24年度 目標値	平成24年度		目標達成 の判定
			実績値	対目標比	
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO <sub>2</sub>	485,892	444,032 (781)	91.4%	○
電気使用量の削減	kWh	979,336	888,854 (20,545)	90.8%	○
ガソリン使用量の削減	L	44,805	41,506	92.6%	○
ガソリン車の燃費	km/L	12.7	13.1	103.1%	○
廃棄物排出量の削減	t	73.61	125.85	171.0%	×
可燃ゴミ排出量の削減	t	9.65	16.59	171.9%	×
廃酸、廃油排出量の削減	t	17.24	22.24	129.0%	×
総排水量の削減	m <sup>3</sup>	3,606	3,358 (16)	93.1%	○
事務用品等のグリーン購入	%	66.0	59.8	90.6%	×
化学物質使用量の削減	L/百万円 (使用量/受注額)	3.17	3.79	119.6%	×
環境保全に関する普及啓発活動	件	140	184	131.4%	○
環境アセスメント関連の実績	件	30	49	163.3%	○

( ) 内はエネルギー環境情報センター分室の実績値

#### 1. 二酸化炭素排出量の削減

二酸化炭素排出量は、電気やガソリン使用量の削減が大きく貢献し、目標値を 8.6%下回り目標を達成しました。原子力発電所停止に伴う節電要請を受け、職員一丸となって節電に取り組んだ結果、電気使用量は目標値を 9.2%下回ることができました。なお、7月から9月の電気使用量は、昨年に比べ 15.3%削減されました。

#### 2. 廃棄物排出量の削減

廃棄物排出量は、目標値を 71.0%超過する結果となりました。主な原因は、報告書保管を電子化したことによる機密書類の廃棄、数年間保管していた土壌サンプルの処分等であり、廃棄物排出量の増加は単年度限りのものと考えています。

#### 3. 総排水量の削減

総排水量は、目標値を 6.9%下回り目標を達成しました。職員の節水意識は着実に浸透していると考えています。

#### 4. 事務用品等のグリーン購入

事務用品等のグリーン購入率は、目標を 9.4%下回り、目標を達成することができませんでした。

#### 5. 化学物質使用量の削減

化学物質使用量は 3,013L（昨年 2,442L）、調査分析部の受注額は 794 百万円（昨年 947 百万円）であり、目標を達成できませんでした。調査分析部は、分析試験において、ISO9001 に基づき化学物質を適正に管理していますが、昨年に比べ放射能分析が減少し、その他の分析業務が増加したことにより、目標値を 19.6%超過する結果となりました。なお、当協会で使用している化学物質は種類が多く、使用量が極端に少ないものが多数あるため、削減対象とする化学物質は、平成 21 年度に年間 100L 以上使用したものとしています。

#### 6. 環境保全に関する普及啓発活動

環境保全に関する普及啓発活動の実施件数は 184 件であり、目標を達成することができました。今後も継続的に活動を実施していく予定です。

#### 7. 環境アセスメント関連の実績

環境アセスメント関連の実績件数は 49 件であり、目標を達成することができました。



## 環境活動計画の取組結果

### 1. 環境活動計画の取組結果とその評価

No.	活動項目	責任者	取組結果			
			4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
1	エアコン設定温度を決め、実行する	田中	○	○	○	○
2	エアコンフィルターの清掃	大塚	×	—	×	—
3	昼休みの消灯運動	大塚	○	○	○	○
4	退出時のOA機器の主電源OFF	藤井 高比良	○	○	○	○
5	ECOねっとシステムの運用	大塚	○	○	○	○
6	エコドライブ10の推進	大塚	○	○	○	○
7	公共交通機関の利用促進	松田	○	○	○	○
8	紙類、ペットボトル等の分別の徹底	辻	○	○	○	×
9	両面・複数ページ印刷の推進、裏紙使用の徹底	岩下	○	○	○	○
10	廃棄物の識別、試薬調整量の適正化、器具洗浄液量の削減	芦川 川村	○	○	○	○
11	節水活動の推進	柳澤	○	○	○	○
12	事務用品等のグリーン購入の推進	大塚	×	○	×	×
13	化学物質使用量の削減	芦川	○	○	○	○
14	環境保全に関する普及啓発活動の推進	大平	—	—	—	○
15	エネルギー環境情報センターにおける取り組み	大平	○	○	○	○
16	環境アセスメント関連の実績	未津	—	—	—	○

### 2. 環境活動の具体的な取組

#### (1) ECOねっとシステムの運用



#### (2) 太陽光パネルの設置



(3) 省エネ型エアコンへの更新



(4) エコドライブ 10 の推進促進



(5) 可燃ゴミの削減



(6) 節水活動の推進



(7) その他の環境啓発活動

① 出版事業

会誌「環境管理」第41号を平成24年7月1日に発行しました。

<http://www.keea.or.jp/rdp/kkweb/kankyokanri41.html>



②環境保全に関する普及啓発活動

■小・中学生を対象とした普及啓発活動の主な実績

イベント名称・主催・開催場所等	開催年月日
まもる一む福岡運営委託 主催：福岡市保健環境研究所 場所：まもる一む福岡	平成24年4月から 平成25年3月まで 295日間
おもしろサイエンス 主催：九電産業（株） 場所：九州エネルギー館	平成24年4月から 平成25年3月まで 年12回
科学実験出前講座福岡 助成：独立行政法人国立青少年教育振興機構こども夢基金 場所：九州エネルギー館	平成24年9月9日
科学実験出前講座福岡 助成：独立行政法人国立青少年教育振興機構こども夢基金 場所：北九州市立環境ミュージアム	平成24年10月21日
科学実験出前講座福岡 助成：独立行政法人国立青少年教育振興機構こども夢基金 場所：福岡県青少年科学館	平成24年10月27日
科学実験出前講座福岡 助成：独立行政法人国立青少年教育振興機構こども夢基金 場所：福岡市保健環境研究所	平成24年12月8日

■地球温暖化防止活動に対する支援事業の主な実績

イベントの名称・主催・開催場所等	実施日
環境経営入門セミナーの開催 ・中小企業向け環境経営システム エコアクション21について ・エコアクション21導入企業のアンケート結果及び取組事例 ・グリーン購入の新たな展開	平成24年8月3日
地球温暖化に関するセミナーの開催 ・福岡県地球温暖化対策事業の紹介 ・センター事業活動の紹介 ・地球温暖化の現状と将来予測	平成24年7月6日
グリーン購入セミナー in 福岡の開催 ・持続可能な低炭素社会への移行に向けた最新の世界動向と環境マネジメントの課題～CFPやCOなどのグリーン購入施策を中心として～ ・県産材を使用したオフィス家具の開発・普及による林業活性化と地産地消の取組 ・EV観光の楽園 沖縄 ・九州GPNの活動と今後の展開	平成25年3月21日

■エコアクション21講師派遣の主な実績

イベント名称・主催・開催場所等	開催年月日
EA21 認証登録事業者向け産廃ガイドライン説明会（佐賀会場） 主催：エコアクション21 中央事務局 場所：佐賀県自治会館 大会議室	平成24年6月29日
EA21 自治体イニシャティブ・プログラム導入セミナー 主催：福岡県環境保全課、福岡市環境政策課共催 場所：福岡県吉塚合同庁舎 会議室	平成24年7月3日
EA21 認証登録事業者向け産廃ガイドライン説明会（福岡会場） 主催：エコアクション21 中央事務局 場所：福岡県西総合庁舎 会議室	平成24年7月19日
EA21 関係企業グリーン化プログラム導入セミナー 主催：物流ネットワーク福岡協同組合 場所：ホテルグランスパアベニュー 会議室	平成24年8月25日
EA21 関係企業グリーン化プログラム導入セミナー 主催：あいおいニッセイ同和損害保険(株) 福岡支店 場所：あいおいニッセイ同和損害保険(株) 福岡支店 会議室	平成24年12月18日
EA21 認証登録事業者向け産廃ガイドライン説明会（福岡会場） 主催：エコアクション21 中央事務局 場所：福岡県中小企業振興センター 会議室	平成25年3月8日

■その他講演会・研修・セミナー等の主な実績

講演内容・主催・開催場所等	開催年月日
福島第一原発事故による環境汚染と人体影響 主催：（一社）廃棄物資源循環学会九州支部 場所：福岡大学	平成24年5月19日
福島第一原発事故による環境汚染と人体への影響及び廃棄物処理について 主催：（公社）福岡県産業廃棄物協会 場所：WITH THE STYLE FUKUOKA	平成24年7月12日
放射線・放射能の基礎と霧箱の実験 主催：（一社）九州経済連合会 場所：宝山ホール	平成24年7月24日
東電福島第一原発事故の放射線影響 主催：九州環境カウンセラー協会 場所：北九州市環境ミュージアム	平成24年9月2日
緊急時モニタリング研修 主催：福岡県環境部環境保全課 場所：福岡県保健環境研究所	平成24年10月5日
医療における放射線・放射能の有効利用 主催：九州大学循環型社会システム工学研究センター 場所：九州大学	平成24年10月20日

## 次年度の環境活動計画

活動項目		責任者	実践事項	チェック方法	チェック頻度
1	エアコンの設定温度を決め、実行する	大塚	① 空調を利用する際の室温（気温）をチェックする。夏は28℃以上、冬は20℃以下。時々室温をチェックし、不必要な使用を避ける。 ② エアコンの設定温度は、夏は28℃、冬は20℃を目安とする。 ③ クールビス・ウォームビスを実践する。夏はノーネクタイ・半袖シャツ、冬はセーター・カーデガン・ハイネックなどを着用する。	巡回	エアコン稼働時
2	エアコンフィルターの清掃	大塚	① 協会全体のエアコンフィルターを年2回清掃する。暖冷切替時期（5～6月）、冷暖切替時期（10～11頃）	ヒアリング	エアコンシーズン前
3	昼休みの消灯運動	大塚	① 昼休みの消灯を徹底する。ただし、降雨などで著しく室内が暗い場合を除く。	巡回	毎月
4	退出時のOA機器の主電源OFF	藤井高比良	① 帰宅時や外出時、長時間の不在時には、OA機器の主電源OFFを徹底する。ただし、FAX機能等の付加による継続電源ONが必要なものは除く。	巡回	毎月
5	ECOねっとシステムの運用	大塚	① 毎月の最大電力使用量の目標を設定する。 ② 警報が鳴ったら館内放送で電気使用の抑制を促す。	モニター	毎日
6	エコドライブ10の推進	大塚	① エコドライブを実践する。急発進や急加速をしない。運転席を離れる時は必ずエンジンを切る。 ② エコドライブを実施した時は、運転記録簿の「エコ運転」欄に○印を付け、できなかった場合は、その理由を記載する。	運転記録簿	毎月
7	公共交通機関の利用促進	松田	① 公共交通機関を率先して利用する。	カード使用管理簿	毎月
8	紙類、ペットボトル等の分別の徹底	辻	① 一般ゴミの分別を徹底する。ゴミ箱に紙類・ペットボトルを捨てない。缶・ペットボトルは、協会内自販機横の専用ゴミ箱に入れる。	巡回	毎月
9	両面・複数ページ印刷の推進、裏紙使用の徹底	岩下	① 両面印刷や両面コピーを実践する。 ② 裏紙が使用しやすい環境を整える。紙の規格ごとに分類し、印刷可能面を上面して整理整頓を行う。	巡回	毎月
10	廃棄物の識別、試薬調整量の適正化、器具洗浄液量の削減	川村	① 対象液の特性（有害性等）を考慮して、廃酸・廃油に該当するかを識別する。 ② 試料数等を考慮して、使用する試薬調整量を適正にする。 ③ 器具洗浄の際は、少量の水（溶媒）で複数回洗浄するなど、洗浄液量の削減に努める。	ヒアリング	毎月
11	節水活動の推進	柳澤	① 節水活動を推進する。	ヒアリング	2か月ごと
12	事務用品等のグリーン購入の推進	大塚	① 事務用品のグリーン購入を推進する。 ② インターネットで購入している事務用品等のグリーン購入額を集計する。	請求書等	毎月
13	化学物質使用量の削減	川村	① 化学物質の使用量の削減を推進する。 ② 四半期ごとに化学物質の使用量を集計する。	納品書等	3か月ごと
14	環境保全に関する普及啓発活動の推進	大平	① 講習会・講演会の開催、講師派遣等の環境啓発活動を実施する。	ヒアリング	都度
15	エネルギー環境情報センターにおける取り組み	大平	① 環境活動が適正に行われているか確認する。	巡回	毎月
16	クライアントに対して環境を配慮した提案	未津	① 環境アセスメント関連事業において環境配慮した提案を実施する。	ヒアリング	都度

## 環境関連法規等の遵守状況

### 1. 環境関連法規の遵守状況

法律名等	対象設備、作業等	要求事項	遵守状況	評価
廃掃法	事業系一般廃棄物	委託先業者選定基準	福岡市長から許可を受けた業者に委託している。	○
		委託基準の遵守	福岡市長から許可を受けた業者に委託している。	○
	産業廃棄物 1.廃油 2.廃プラスチック 3.ガラス屑 4.汚泥 5.その他ガレキ類	自社運搬の基準	産業廃棄物を東部清掃工場に運搬する際、飛散、流出しないように対策をとっている。	○
		保管基準の遵守	保管場所は廃棄物が飛散しないように対策をとっている。掲示板は2か所設置し、廃棄物の種類を区分している。	○
		許可業者への委託	産業廃棄物は許可業者（委託契約及び覚書に示す。）に収集・運搬・処分を委託している。	○
		委託基準の遵守	委託契約書を確認した。	○
		管理票（マニフェスト票）の交付	管理票の交付及び記載事項に問題はなかった。	○
		管理票（マニフェスト票）A票の保管	管理票の写しは保管されていた。	○
		管理票（マニフェスト票）の写しの送付を受けるまでの期間 マニフェストのB2, D, E票	管理票の写しは保管されていた。	○
		管理票（マニフェスト票）に関する知事への定期報告	平成25年6月25日に福岡市長へ産業廃棄物管理票交付等状況報告書を提出した。	○
	管理票交付者が講ずべき措置	管理票の写しは送付されていた。	○	
	特別管理産業廃棄物 1.廃酸 2.廃油	特別管理産業廃棄物管理責任者（特別管理産業廃棄物）	特別管理産業廃棄物管理責任者を選任している。	○
		保管基準の遵守（特別管理産業廃棄物）	保管基準の遵守を確認した。	○
		許可業者への委託（特別管理産業廃棄物）	特別管理産業廃棄物は許可業者（委託契約及び覚書に示す。）に収集・運搬・処分を委託した。	○
	産業廃棄物の処理困難通知及び虚偽記載時の対応（特別管理産業廃棄物含む）	廃棄物の適正管理の確認、対応	管理票の写しが適正であることを確認した。	○
	廃棄物全般	投棄禁止（未遂を含む）	廃棄物は許可業者に収集・運搬・処分を委託した。	○
焼却禁止（未遂を含む）		廃棄物は焼却していない。	○	
下水道法	排水水	排除基準の遵守	下水の水質検査は、3か月ごとに検査を実施し、4～6月、7～9月、10～12月、1～3月の検査結果は排除基準を満足していた。	○
		特定施設の届出	下水道法に基づく特定施設の届出をしている。	○
		汚濁原因者負担金	指定疾病に影響を与える水質の汚濁原因である物質は当該公共下水道に排除していない。	○
		報告の徴収	6月福岡市の立入検査があり、水質検査の結果は排除基準を満たしていた。	○
		事故時の状況及び講じた措置の届出	政令で規定する物質を含む下水が公共下水道に流入する事故の発生は無かった。	○
毒物・劇物取締法	許可申請	特定毒物研究者の届出	特定毒物研究者の許可を受けている。	○
	毒物又は劇物の取扱	毒物劇物取扱責任者	毒物劇物取扱責任者を選任している。	○
放射線障害防止法	許可申請	保管管理 盗難、漏洩の防止	鍵の掛る保管庫で厳重に管理され、盗難・漏洩を防止していた。	○
		使用の許可	文部科学大臣の許可を受けている。	○
原子炉等規制法	許可申請	使用の許可（核燃料物質）	文部科学大臣の許可を受けている。	○
		使用の許可（国際規制物質）	文部科学大臣の許可を受けている。	○



法律名等	対象設備、作業等	要求事項	遵守状況	評価
消防法	火災の予防	防火管理者	防火管理者を定めている。	○
		消防計画 避難訓練	消防計画に基づく、総合訓練（消火、通報及び避難訓練）を実施していない。	×
		消防設備等の点検	5月、11月に消防用設備等の点検を実施した。	○
	危険物の貯蔵	設置許可の届出	福岡市長の許可を受けている。	○
		倍数変更の届出	2月7日に危険物の指定数量の変更を届け出た。	○
労働安全衛生法	労働者	健康診断	定期健康診断を5月に実施した。 特定業務従事者を対象に、電離放射線健康診断と有機溶剤等健康診断を5月、11月に実施した。	○
自動車リサイクル法	自動車の管理	自動車の所有者の責務	点検等で指摘を受けた箇所は修理し、自動車を長期間使用できるようにしている。（走行距離20万キロが更新の目安）	○
	再資源化等の実施	使用済自動車の引渡義務	新車購入時に福岡日産自動車(株)へ1台、福岡トヨペット(株)へ2台引き渡した。	○
	リサイクル料の納付	再資源化預託金等の預託義務	新車3台購入時にリサイクル料金を支払った。	○
フロン回収・破壊法	業務用冷凍空調機器	フロン類の回収業者への引き渡し、引取証明書等の保存	冷却循環装置を処分する時に委託確認書を受け取った。	○
家電リサイクル法	エアコン、テレビ（ブラウン管・液晶・プラズマ）、冷蔵庫、冷凍庫、洗濯機、衣類乾燥機	特定家庭用機器廃棄物の再商品化	該当事項は無かった。	○

## 2. 訴訟の有無

関連当局からの違反の指摘はありませんでした。

## 3. 外部からの苦情

外部からの苦情はありませんでした。

## 代表者による全体評価と見直しの結果

環境マネジメントシステム エコアクション21を導入して4年が経過し、職員の環境への取組に対する意識は着実に浸透しており、日常の環境活動が確実に実施されています。

平成24年度の環境目標のうち、二酸化炭素排出量の削減、総排水量の削減、環境保全に関する普及啓発活動、環境アセスメント関連事業の実施に対する取組については、目標を達成できていました。なお、廃棄物排出量の増加は単年度限りであり、化学物質使用量の増加は事業量の増加に伴うものでありやむを得ない面がありました。

総合的に判断して環境経営システムは、おおむね有効に機能しており、今後も職員が自主的、積極的に環境への取組を行い、持続可能な社会の構築に貢献していくことを期待します。

理事長 持田 勲